

うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針(改定版)(平成28年3月)
(抜粋)

2 基本方針の目的

世界が認め、世界とつながるイノベーション拠点を大阪につくる

- ・大阪に世界中からイノベーションの種が集まり、大阪を経由して成長した種が世界市場に飛び出していくという、日本で一番イノベーションに開かれた中継都市を実現する。
- ・グローバル経済の激しい競争のもとでは、イノベーションを生み出し続けることが不可欠であり、従前の自前主義から脱却し、組織や国境を越えたオープンイノベーションに取り組むことが急務である。
- ・また、革新的な発想を生み出す起業家やベンチャー企業は、新たなビジネス創出のプレイヤーであるとともに、既存の企業にとっても有望なパートナーであり、彼らの力強い成長を支援する場の形成が必要である。
- ・アジアをはじめとする世界市場の成長をとり込みイノベーションを生み出すためには、世界が認め、世界とつながるイノベーション拠点を大阪につくり、世界中から人・技術・資金・情報を集め自律的に循環するエコシステムを構築することが必要である。

3 基本方針の方策

〔理念〕 多様な人びとが、オープンマインドで、フラットな関係でつながる

○ 世界に通用するイノベーションのエコシステムをつくる

- ・エコシステムの要素はすべて大阪にある必要はなく、世界中にある資源を組み合わせるため、世界と大阪・関西のイノベーション活動の中継地となる拠点を大阪につくる。
- ・事業成長の初期段階から、将来のグローバル展開を見据えたプロジェクトを組成・育成する機能を備え、次々とイノベーションを生みだし、世界へ展開していく足掛かりとなる場としくみを、うめきたを中心に構築する。

○ 域内の強みを集積し、結合し、反応させる

- ・風土的強みと人的資源の強みに加え、関西の持つ世界的な規模での企業集積や、高度な技術集積の強みを結合し、反応を促進する。
- ・集積・結合・反応を起こす人材・機能（スーパープロデューサー）を集める。

○ 産学官金の連携ネットワークを強固にする

- ・産学官金の強固な連携ネットワークにより、街ぐるみの運動を行っていく。

○ 民間主導の運営体制を構築する

- ・この運動を街ぐるみの運動にしてゆくのは、自治体の大きな役割であるが、実際の活動は、あくまで民間主導とする。行政は、民間の支援者として、起業家が生まれ、成長し、成功者が次の成功者を育成する循環環境の整備、世界に通用する自律的なイノベーションエコシステムの土壌をつくる役割を担う。

4 基本方針の期間

平成28年度から概ね3年間とし、3年目に見直しを行う

5 基本方針の目標

■ 大阪のイノベーション・エコシステムが、世界に認められ、世界につながるエコシステムとして、更なる成長をめざすため進捗を示す指標として、下記を目標とする。

[① 本拠点の趣旨に賛同し新たに参画または SNS 等でつながる人数 150,000 人(3年間)]

イノベーション創出のためには多様な人材の参画が必要であり、必要条件として、本拠点が広く認知され、支持されている状況の強化をめざす。

(参考実績：平成27年度 約 50,000 人増加)

[② 平成30年度のピッチイベント開催回数 50回]

有望な起業家が存在し、資金獲得や支援者との出会いにつなげるピッチイベントの開催頻度により、イノベーション・エコシステムの発展段階が見える。

(参考実績：平成27年度までは年間30回程度を開催)

[③ グローバル展開を見込まれるプロジェクトの創出・推進支援 150件(3年間)、ベンチャー企業等が投資を受けた額 25億円(3年間)]

スーパープロデューサーを中心に質の高いネットワークを構築し、質の高い支援コミュニティによるエコシステムによって、プロジェクトの創出や推進に寄与する。

(参考実績：平成27年度までの3年間で114件のプロジェクトを創出し、約17億円の資金を獲得)

6 基本方針の視点

① 国内外のスーパープロデューサーを核としてイノベーション創出支援チームを生み出し、起業家、ベンチャー企業の成長を支援する

- ・イノベーション創出には将来の成長ニーズをつかみ、世界中から適切なシーズ・技術、プレイヤーを目利きするスーパープロデューサーが必要不可欠である。
- ・さまざまな関係者をつなぎ、質の高いネットワークを構築し、コミュニティを育てていくスーパープロデューサーを拠点に配置する。
- ・世界中の技術開発や新事業創出をめざす人たちのコミュニティや、彼らを支援するコミュニティと連携し、グローバルな観点を持つ海外人材と国内事情に精通した人材を組み合わせるなど、イノベーション創出支援チームを組成しながら、活動を展開する。
- ・イノベーション・エコシステムの中核となるベンチャーキャピタル、ファンドやシードアクセラレーターの充実や大学との連携、大企業の巻き込みを促し、うめきたをゲートウェイとして世界と繋がり、さらなる人・資金・情報の集積を促進する。

② ニーズが見え、技術が見つかり、仲間やメンター、支援者などと出会うイノベーションのプロセスそのものを「見える化」するイノベーションプラットフォームを構築する

- ・関西最大の都心機能を活用し、さまざまな場面のニーズの顕在化とその検証活動、技術シーズの探索、プロジェクトチームの編成、活動などの情報発信を一気通貫で行い、イノベーションのプロセスを見える化する。
- ・グローバルに求められるサービス創出をめざし、新たな技術開発をテーマに、個人や中小企業も参画できる実証実験プラットフォームを構築する。
- ・大阪の地場の技術の取り込みやプロトタイプ投入などにより、大阪が世界市場展開前の実験場となる。
- ・イノベーション創出活動への参加を促進するために、成功事例をつくって見せ、具体的な目標と活動イメージをつくりだす。
- ・イノベーション・エコシステムの発展状況の指標となる、コミュニティ主催イベントやハッカソン、支援者によるアクセラレーション活動、資金獲得や支援者との出会いにつながるピッチイベントを数多く実施する。

③ 英語を使って世界とつながる：グローバルコミュニティに接続し人材を引き付ける

- ・世界から人材や情報が集まることをめざし、情報発信に注力する。
- ・うめきたの機能と、これまで蓄積された大阪の技術や企業の情報、成功事例などを英語で世界に発信する。
- ・来訪者が英語を使って人・資金・情報とつながる環境をつくる。
- ・世界からイノベーション活動を共にする仲間、同志を引きつけ、多様な人材の層を厚くすることによってイノベーションの成功確率を高める。